

議席番号12番、渡辺良孝です。一般質問を行います。

第5次総合計画の向かう5カ年計画は、積極的に。

今年度は、第5次総合計画（2014年度～2023年度の10年計画）の前期5カ年の基本計画が終わり、後期5カ年の見直しに入っている。基本構想は、特に見直さず、時点修正のみとのことである。ここまでに住民アンケート結果、さらに前期基本計画の検証を行い、さまざまな要素をもとに、計画素案を策定中である。

この後期基本計画が向かう5カ年間には2020東京オリンピック・パラリンピックが開催され、新東名高速道路の完成により、山北スマートICがつながる。今、国が挙げて取り組んでいる大きな事業が進んでいく。東京80キロ圏が新東名高速道路で、ますます近くなる当町にとっては、それらの事業につながる計画を策定していく大切な時期であると思い、質問をする。

1、私はことしの3月議会で、（仮称）山北スマートIC周辺活性化計画について質問をした。町長は、「今後は町では中日本高速道路（株）と連携し、新東名の進捗状況も注視しながら、地元の清水地区とも連携を図り、周辺活性化計画に取り組んでいく」との答弁であった。企業等の誘致には、スマートICを生かした計画を総合計画にしっかり位置づけ、町の積極的な取り組みをすべきと思うが、周辺の土地利用計画策定への取り組み状況はどうか。

2、訂正していただきたいと思いますが、「道の駅山北」がかぎ括弧になっておりますが、道の駅「山北」をかぎ括弧でくくっていただきたいと思っております。そうなりますと、この行と4行目と最後の行になります。三つを、山北をかぎでくくっていただくということをお願いしたいと思います。

道の駅「山北」をスマートIC周辺土地利用施設の拠点に。河内川にかかる鋼・コンクリート複合ガラスドアーチ橋は、この工法では日本最大級になると言われ、名所となることが期待される。現在、周辺施設となる道の駅「山北」は駐車場も狭く、手狭になってきている。全国的に見ても、道の駅を町おこしにつなげ、集客数をふやしている市町村も多く見受けられる。そこで、道の駅「山北」をスマートIC周辺土地利用の拠点の施設として位置づけ、規模や場所など見直すことも検討すべきではないか。

### 3、（仮称）小田原・甲府線計画の再構築を。

町議会では、道志村議会と連携をとり、昨年12月に山北町へ道志村議会議員が来訪された。さらに、ことしの3月に、山北町議会議員が道志村を訪問し、（仮称）小田原・甲府線計画の再構築について、意見交換会を行い、双方の議会は前向きであることを確認している。ことしの3月議会の一般質問で、町長は「（仮称）小田原・甲府線計画については、現状では非常に厳しい状況であると言わざるを得ない。しかし、本町にスマートICが設置されることもあり、（仮称）小田原・甲府線計画については、道志村はもちろん神奈川県、山梨県に関する周辺自治体と連携して、国、県等に要望するなど、長期的な視点で進めていく考えである」との答弁であった。この計画は、当初、道志村からの話であった。しかし、ここで当町にスマートICができる、山北町から道志村へ計画を持ちかけ、国・県道として採択されれば、地元自治体の負担はないことから山北～道志間の道路構想を再構築し、県境を越えた広域幹線道路として、後期基本計画に位置づけるべきと思うが、どうか。

### 4、県道認定されている県道山北山中湖線計画の復活を。

この県道計画は第4次総合計画まで位置づけられていた。しかし、第5次総合前期計画では、具体的な計画はなくなっている。世附川上流の浅瀬地域からさらに上流の水の木沢、さらに大又沢方面は従来から林野庁の管理下の林道になっている。そして、現状は通行不可能であるが、神奈川県道、山梨県道729号、山北山中湖線として、県道認定されている。

平成28年12月議会の一般質問の町の答弁では「富士・箱根・伊豆SKY交流圏を形成する幹線道路の整備促進に絡めて、この路線の幹線道路構想の復活について、引き続き国及び県に粘り強く要請していく。しかし、現状では、非常に厳しいと言わざるを得ない」とのことであった。

国際的にも注目を集めている世界遺産の富士山、その周辺の豊富な観光資源に当町は稜線で分かち合っている。小田原・甲府線も同様であるが、三保地域の過疎化、さらには町の観光対策はもとより三保地域災害時の緊急避難路を確保するためにも、これからは山梨・静岡両県とのつながりを強めていくべきではないか。ここで県道山北山中湖線計画を復活し、山北スマートICにつなげる幹線道路計画として、後期基本計画に位置づけていくべきと思

うが。

議  
町

長 答弁願います。町長。

長 それでは、渡辺良孝議員から第5次総合計画も向かう5カ年計画が積極的についでの御質問をいただきました。初めに、1点目の御質問の企業等の誘致には、スマートICを生かした計画を総合計画にしっかり位置づけ、町の積極的な取り組みをすべきと思うが、周辺の土地利用計画策定への取り組み状況はどうかについてであります。これまでも渡辺議員からは同様の御質問をいただいておりますが、町ではスマートICを産業・観光のゲートとして、観光交流人口の増加や新たな産業振興につなげていくため、今後スマートICの詳細な全体像が見えた段階で、スマートIC周辺活性化計画の策定について、取り組んでまいりたいと回答しております。

現在、スマートICにつきましては、平成29年6月の事業エリア拡大に伴う基本協定の変更に基づく詳細設計の変更や本年4月の工事等に関する細目協定の締結を経て、本線工事と並行して、事業が着々と進められるとともに、スマートICに接する周辺道路施設なども見えてきたところでありますので、御質問のとおり、第5次総合計画後期基本計画の中でもスマートIC周辺土地利用計画の策定について位置づける方向で、現在調整を進めております。

今後も、中日本高速道路株式会社等と連携し、新東名高速道路の進捗状況も注視しながら、地元の清水地域とも連携を図り、地形的な制約がある本町に合った周辺の土地利用計画の策定に取り組んでまいります。

次に、2点目の御質問の道の駅「山北」をスマートIC周辺土地利用の拠点の施設として位置づけ、規模や場所などを見直すことも検討すべきではないかについてであります。現在の道の駅「山北」は丹沢湖、中川温泉へ向かうゲートとなっておりますが、スマートIC完成後は、洒水の滝、大野山、高松山など山北町全域へのゲートとして、さらに役割は大きくなるものと考えられます。

このため、電気自動車のための急速充電器の設置などを行い、地域の拠点施設となるよう設備、機能の充実に努めております。

また、スマートICが完成した後は、河内川にかかるアーチ橋を見に大勢の観光客等が訪れることも想定されるため、周辺の観光案内も含めて、場

所や駐車スペースや施設の規模、機能等、さらなる地域の拠点施設となり、町おこしにもつながるよう国や県とも協議・調整をしてみたいと考えております。

次に、3点目の御質問の山北～道志間の道路構想を再構築し、県境を越えた広域幹線道路として、後期計画に位置づけるべきと思うがについてはありますが、これも以前に同様の御質問をいただいておりますが、現在、道志村では町を縦貫している国道413号から、相模原市街地へアクセスする「国道413号道志バイパス野原月夜野のトンネル計画」、同じく都留市へアクセスする「県道都留道志線トンネル計画」を広域道路網整備事業として、優先的に促進することとしております。

この二つの事業については、計画年次を2016年から2025年度とする「道志村総合計画」に位置づけられており、御質問の道志村と本町を結ぶ（仮称）小田原・甲府線計画については、広域道路網整備事業としてふれられておりません。

（仮称）小田原・甲府線計画のような複数の自治体をまたぐ構想については、関係自治体間の相互理解のもと進めていくことが不可欠であることから、現状の道志村総合計画にこの計画の位置づけがされていない状況において、本町の総合計画に具体的な路線名で位置づけることは、現時点では難しい状況です。

このため、後期基本計画においても（仮称）小田原・甲府線計画という路線名ではなく、前期基本計画と同様に「県境を越えた広域幹線道路整備の促進」として位置づける方向で考えております。

次に、4点目の御質問の県道山北山中湖線計画を復活し、山北スマートインターチェンジにつなげる幹線道路計画として、後期基本計画に位置づけていくべきと思うが、についてはありますが、県道山北山中湖線は山北町と山中湖村を結ぶ県道ではありますが、浅瀬地区以西の11.2キロメートルについては、東京神奈川森林管理署管理の林道であり、一般車両の通行は禁止され、県境までの1.1キロメートルについては未整備で通行できない状況にあります。

このため、県西土木事務所及び森林管理署に今後のこの路線の考え方につ

いて、改めて伺ったところ、「県道としての整備計画や林道の一般開放する考えはなく、当面はこれまでどおり利用を続けていく」とのことでありました。

このような状況から考えると、第5次総合計画後期基本計画には、先ほどの（仮称）小田原・甲府線計画と同様の位置づけをせざるを得ないと考えております。

なお、本町から道志村や山中湖村へアクセスする道路計画の実現については、現状では非常に厳しい状況ではありますが、広域的観光ルートの構築や災害時の迂回路など、防災的な視点から、その必要性は十分認識しておりますので、今後も引き続き粘り強く国、県へ要望するなど、長期的な視点で進めてまいります。

議 長 渡辺良孝議員。  
12番 渡 辺 渡辺です。

まず、スマートインターチェンジの関係ですね。周辺の土地利用計画についてということで、前回も質問していますが、今回もほぼ内容的には、当然変わらないような気がするんですが、ただスマートインターチェンジの周辺整備計画で清水地域とよく連携をとってということで、答弁も前回もあって、今もあるんですが、実際、清水のほうに確認しますと清水あり方検討会では地域のいろいろ検討しておられるようです、外部の人がいて。これは地域で検討していることなんですけど、じゃあ、町として地域とのつながりをもったそういう検討計画は、今、総合計画の質問とはいっても、もう5次の計画つくる段階で、その辺のつながりの打ち合わせ、連携というのは、実際やっているんですか。

議 長 副町長。  
副 町 長 はい、スマートインターチェンジ周辺の土地利用計画、具体的に申しますと、平成31年度にはもうしっかりとやっていきたいと思っています。

その段階では、今議員おっしゃるように清水地域、地元の地域とそれから地元の有志でつくる、ありますよね、一つの会が。その辺との町との連携をとった中で、しっかりとした実現可能なものをつくっていききたいというふうに思っております。

議 長 渡辺良孝議員。

12番 渡 辺 渡辺です。

それでは、ここ中盤に来ているんですよね。そして、この総合計画は、もう来年スタートするわけですよね。だけど、その辺聞いてみて、つくっていきまますということなんですけど、総合計画にはどのような形で位置づけていくということですか。

議 長 副町長。

副 町 長 総合計画の中には、スマートインターチェンジ周辺の土地利用について、ここに何をつくる、ここに何をする、ここに利用するというのではなくて、スマートインターチェンジ新東名と連動した土地利用計画を何年度につくるというふうな形のもので、位置づけていきたいというふうに考えています。

議 長 渡辺良孝議員。

12番 渡 辺 渡辺です。

たしか土地利用計画は1年おくれで出す予定ですか。それはどうですか。

議 長 企画政策課長。

企 画 政 策 課 長 現行で第3次土地利用計画というものがございまして、先ほど、副町長が申しましたスマートの関係につきましては、それとは別に策定するというような考えでございまして。

議 長 渡辺良孝議員。

12番 渡 辺 じゃあ確認で、土地利用計画に入れるというのは入れるんだけど、周辺整備計画は、別につくるということでもいいですね。ちょっとそれを確認したい。

議 長 企画政策課長。

企 画 政 策 課 長 はい、そのとおりでございまして。ただ、当然、土地利用計画との整合性ですとか、そのあたりはしっかり図ってまいりたいというふうに考えてございまして。

議 長 渡辺良孝議員。

12番 渡 辺 渡辺です。

それでは、それは別途につくるということで確認させていただきます。

それから、2点目の道の駅「山北」スマートインターチェンジ周辺土地利

用の拠点の施設として、位置づけられることに対して、ちょっと、ちょうどこの機会ですので、私も道の駅ってどうかなというふうに、この前も講演会があるところでお聞きして、また資料を調べた中で講師の方は町長もよく知ってられました。それで、神奈川県は3駅しかないんだと。それで箱根と山北と清川ですね。それに南が加わると。今度は大々的に茅ヶ崎の柳島に大規模な道の駅が、これは県でも認めているようですね。そのできても3プラス2ですから5ですよ。

そして、埼玉から静岡なんて20幾つあるんですよ。何かそれ一覧表を見ると東京に一つ、神奈川に3駅、あと周りが20何駅ですね。そんな中の話を聞きますと、やはりこの道の駅は、当然、地元市町村を初め、地域が結構その気で動きますとつながってできていくというそんなイメージで、ちょっと講演会を聞いてきたんですよ。ですから、その辺で町長も知っている講師の方ですから、その辺で町長の見解はどうでしょうか。

議 町 長

町長。

私もスマートインターチェンジができたときには、道の駅も何らかの形でやっていきたいと。できれば今まであるような道の駅でなくて、例えば上下にあるとか、川の向こうにあるとか、そういったようなことが可能かどうか、あそこのところを拡幅するということは、もう物理的に無理ですので、やはりどちらかにふやすことが連携できるようなことが実際できるのかどうか、そんなようなことを検討していきたいと思っております。

議 渡 辺 12番

長 渡辺良孝議員。

今、町長の考えを聞いて、先は、ひとつそんな思いでということで、私もいろいろの方と聞く中で、やはり道の駅は県道にあってもいいということですね。県道にある道の駅。国道にある道の駅。そうすると今山北の道の駅は、県道ですよ。あれは神奈川か。ただ、国道に、まだ夢があるんじゃないかというようなこともちょっと思いもありました。

そして、また、先ほどの一般質問で瀬戸課長が言われた、前のはいいんですよ、対岸の中日本がつくっておられるいろいろ見学コース、新東名の。あれ何かは、すごく勉強になるかなと思いますよ。ですから、そういうこといろいろセッティングするとか。先のことですけど、早目からそういう視点で

ぜひ取り組んでいくべきだと思いますが。

議 長 町長。  
町 長 具体的にどこの場所でどういうふうにとりよう、まだ、あれですけども、基本的には道の駅にはせつかく出口にあるわけですから、場所が違おうと、あるいはどうであろうと、何とか道の駅に近いものがやっていきたいなというふうに思いますし、また橋が非常に日本で構造の橋としては、最大級ということですので、そういったところを見れるような、そういったような場所もそれにあわせて、あるいは、そこから案内できるような、そんなようなことができればいいなというふうに思っております。

議 長 渡辺良孝議員。  
12番 渡 辺 渡辺です。  
ちょうど道の駅について、意外なところの資料を、ちょっとここで申し上げて、道の駅は見直し期に来ているということはどういうことかといいますと、やっぱり外国人が来て、なかなか対応が大変であるということですね。そういうことを考えると、全国的な部分でオリンピックに向けて、結構、そういう動きが出てくるんじゃないかな。そんなようなことと、何しろリピーターが多いということで、一番順番に見ますと中国の伸びが21%伸びて、中国人がすごい、フィリピン、ベトナム、ロシア、この辺が道の駅を3回から4回、何度も来るらしいんです。1回来て流れるということないんですからね。この辺は非常に定着して、ある程度までいくのかなというふうに言っている方もいましたからね。その辺は、ぜひせつかくある道の駅、ぜひ生かしていくべきだと思います。

それで、今ちょうどそんなお話を聞く中で、山北の道の駅を利用して、今しか見えないところ、例えば新東名の工事の関係、最近八ッ場ダムを現場に見に行くとか、それが道の駅につながっていくらしいんですよ。そんな関係でイベントが結構組まれている、観光会社で。多分、町長その辺は認識していただけるんじゃないかと思うんですけど、どうですか。この山北の道の駅へ観光会社がツアーで来る。これは新東名の見学に来る。そんな情報は聞いていますか。

議 長 町長。



町 長 観光会社から直接という情報は、私は持っていないんですけども、今のところ、洒水の滝のほうに随分観光バスが来ている。それから、そこの中日本さんのやっているのは、鹿島のところで案内をしていますけども、それらが非常に人気があって、非常に今大勢の方が来ていただいているということは聞いておりますけども、それ以外のちょっと情報は私は持ち合わせておりません。

議 長 渡辺良孝議員。

12番 渡 辺 渡辺です。

これは施設をつくるというより、今の山北の現状、新東名ができるまでの間のまちおこしとして、今工事の関係者が入っていられます。それはそれでいいんですけど、できたら、これを今のあそこのPR館、ふれあいビレッジのところのPR館、この辺はできたら各課長さんも聞いてたら、まだ見られない方もいるということですが、この前、観光協会の事務局長さんにも見ておいて、案内しても価値があるんじゃないのと、そんな話をしたんですよ。ですから、これはダムができるまでの間の町の活性化を求めるためにも、せっかくある日本最大級の橋をつくるジオラマというのが、あれだけでできていますからね。その辺は、ひとつPRを皆さんができるように、職員の皆さんが見ておく。その辺は細かいことですけど、どうでしょう。

議 長 町長。

町 長 私もPR館を何度か見させていただいて、バーチャルで見えたり、それから案内の名刺大のものもつくらせていただいて、いろいろなところに配布して来ていただきたいということで、今現在は予約が非常に多くて、なかなかとれないというようなことも聞いておりますので、この間、三保小学校が見学に行ったり、それから、あとこれから川村小学校のほうもぜひ行きたいというようなことっておりますので、できるだけ非常に大勢の方に来ていただいているので、でき上がるまでの間、PR館については、積極的にやっていたくということで、向こうのほうもうれしい悲鳴じゃないですけど、相当電話が頻繁にかかって、対応が大変だというふうに聞いております。

議 長 渡辺良孝議員。

12番 渡 辺 渡辺です。

何かの今、道路の関係ですね。ちょっといろいろ見ますと、すごい勢いで動いているなど思うのは、圏央道ができて、もう7割、8割が首都圏に入らない。ストレートで関越につながっていくというのがデータであるんですね。そういうことを考えますと、もう政策で道路がどんどん動いていきますと、人の動きが変わってくる。

そして、今この前の湯河原へ行く県道が波をかぶって、それで、もうその先も大変だということで、いろいろ心配あるんですね。それでこちらへ県西部のほうへ道路の波がいろいろ動いてくるんじゃないかなという感じがしているんですね。ですから、こういう新東名を通して道の駅もそうですけど、これからまた再質問しますが、小田原・甲府線なんかも夢のようなことが現実になっていくかなというような、そんな感じもしながら、ちょっと研修を受けて、いろいろお話を聞きました。

そんなことを思うとき、総合計画で道づくりを計画するには、職員の皆さんと一緒に、何て言うかな、情報を共有する研修会をやって、そして積み上げていく。そういう形でないと、ただこの周辺だけを見ている、ついていけないかなという感じしたんですけど、町長どうでしょうか。

議 長 町長。

町 長 まだスマートインターチェンジが決まったときかな。国交省のほうへ行かせていただいて、その中で一番強く言われたのは、あそこに県道のほうにおいてきて、国道に出ますよね。あそこがどうしても混んでしまうというので、あそこを何とかしないと、これから発展が難しいということで、プロの方から、そういうふうに言われましたので、私としては、今の246を何とかまず拡幅、今の2車線から4車線、とにかくあそこはずっと渋滞しますし、今も、新東名の絡みでは川西線のほうをダンプが通るというようなことで計画しておりますけども、そういうような方法では、やはりあその部分が山北町にとって、スマートインターができたときに一番ネックになるところではないかというふうに考えております。

議 長 渡辺良孝議員。

12番 渡 辺 渡辺です。

町長のその考えは前も聞きました。大事なことだと思います。ただ、さっ

き私、質問したのは、やはり幹線道路とか、周辺の関係の計画、また、それを組み立てるには研修会等をやったらどうかと、そんなちょっと余計なことだけど、そうして情報を共有して組み立てないと、結構、広域な発想で先を見た計画をしておかないと追いついていかないかなという感じはしているんですけど、どうでしょう。

議 長 町長。

町 長 広域幹線については、SKY圏もございますし、さまざまところで、位置づけをしながら同じ県の中でしたら、また、あれですけど、広域でやる場合は、どうしても他の県との絡みも出てきますし、そういった意味では、非常に重要な案件だというふうに思っておりますので、それらを含めて総合的に判断していきたいというふうに思っております。

議 長 渡辺良孝議員。

12番 渡 辺 まずは、広域幹線道路の関係ですけど、県と県にまたがる道路計画は市町村の負担ないというふうに確認しているんですよ。市町村負担がない。認定されれば。

それと前の答弁で国の財政が非常に厳しいから、なかなか小田原・甲府線は無理なんで、そういう話もちょっと答弁であったんですよ。私は、それについては、結構、関係者に聞いている中で認定されるまで調査費はかかるかもわかんない。これが例えば2県をまたぐのでは、国が、県が調整する。その辺、町長どうですか。確認ですけど。

議 長 町長。

町 長 当然、渡辺議員のおっしゃるとおりだというふうに思いますけれども、私のスマートインターに対する考えは、一番、何度も言いますが、国交省さんの考えが何人かの方にお会いしましたが、図面を見まして、簡単に言うわけですよ。こことここでぱっと通したらいいねと。50億ぐらいでできるんじゃないですかみたいなことを簡単に言うわけですよ。その計画ですと町内のことですから、当然、広域ではございませんので、おっしゃるように町負担も起こるといようなことですので、そういったような意味ではやはりスマートに関しては、かなり広域幹線も含めて、ですから、おっしゃるように山中湖線とか、そういったものは非常にこれからも大事な路線では

ないかなど。

少なくともどうやらあそこから行くと、246に行くしかないという選択肢になってしまいますから、その中でやはり交通渋滞が起こるだろうというのが、そういったような国交省の皆さんの考えみたいですんで、我々としても、そのところは重く受けとめながら、対応をしていかなければいけないなどというふうに思っております。

議 長 渡辺良孝議員。

12番 渡 辺 渡辺です。

今、スマートインターができるのは、町道をつくるから、結構、何というんですかね、町長、町としていろいろ低姿勢じゃなきゃいけないと思うんですが、これが、もし本当に新東名から県道へつながる、これが台数が相当ふえてきたときに、果たして町道でいいのかという、このぐらい県道に昇格してもらって発想なんかも将来持ってもいいんじゃないですか。どうなんですか。

議 長 新東名対策室長。

新東名対策室長 お答えいたします。

まず、スマートインターの誘致の関係からいきましても、最初の段階で、町道ということで事業認定をいただいた経過もありまして、議員さんがおっしゃるように、今後台数等がふえた中で県道への昇格を要望していくとか、そういう活動につながっていくかと思えます。

今の時点では、台数等がまだはっきりしておりませんので、現状のままということで御理解いただきたいと思えます。

議 長 渡辺良孝議員。

12番 渡 辺 そうしますと町長、例えば清水橋が渋滞するというとき、国道と県道ですから、だから町長が頭を抱えないで、逆にどんどん皆さんでいう国県へ要望していく。それとやっぱりこれは国が中心に、ましてスマートインターの出口ですよ。それで箱根へつなげようと、そういうような構想を持っているとき、私は、地元町長は逆にどんどん要請していく、そういう立場でいいんじゃないかと思うんですけど、どうでしょうか。

議 長 町長。

町 長 広域道路のいろいろな要望活動の中で、石井国交大臣のほうに伺ったとき

も一番申し上げたのは、国道246の拡幅、そして清水橋の拡幅というんですか、そういったものを要請しておりますんで、当然、あと横浜国道とか、そういったところにも同じような要望をさせていただいております。

議 長 渡辺良孝議員。

12番 渡 辺 渡辺です。

それと町長、先ほどの研修なんかは機会を含む、我々議員も含めてもいいんですけど、そういうことはどうなんでしょう。ある町で、やはり管理職と建設関係者、それに、そこに町長も来ているんです。そこで国の関係者から最近の道路事情とか、それを一緒に聞くんですよね。そうすると共通共有して考え方がいろいろ議論できる。だから総合計画を組み立てる道路構想なんかは、そういう広い研修の場をつくって進んでいく。それは引っ張り合いじゃなくて、その積み上げになるのかなと、そんな思いなんです。

議 長 町長。

町 長 そういう方向で進めていきたいというふうに思っております。

議 長 渡辺良孝議員。

12番 渡 辺 渡辺です。

それでは、次でいいんですね。次は小田原・甲府線の関係になります。先ほど、質問も出ていますので、ちょっと、まずこの質問をしまして、私の質問の中の内容について、ある方、結構、小田原・甲府線にかかわった方ですけど、そこから指摘がありまして、それで、きのうもちょっと調べたんですよ。そして、その内容は、私は町の答弁で質問したんですよ。町の答弁をもって質問したと、それは小田原・甲府線構想は、平成9年度に山梨県道志村から地形的な制約により途絶えている山北町へ抜ける新たな幹線道路建設計画の実現について、協力要請があったことを契機として、調査を開始したと。

これは平成、ことしの24年か、これは前のときですね。24年のときです。それから、こういう道志から話があったということで。私も今回の質問でそのとおり、この計画は当初道志村からというような質問をしています。これはどうかなと思って、私が質問した手前、ただ町にここで言うというより、ちょっと調べさせてもらいました。道志の議員にも聞いたりしたところ、結

局、この件については、平成9年度は道志村から山北町の行政担当でトンネルを抜く話、小田原・甲府線じゃないんですね。トンネルを抜きたいけど、どうでしょうときたのは、平成9年度なんですね。それで、山北町が調査を始めて、それで現実に道志へ行っているのは、議員間で調べさせてもらったんですけど、平成11年度に行っているんですね。課長参事が。そのときのいろいろかわったリーダー、トップがいろいろ動いて、小田原・甲府線計画を策定して、小田原・甲府線計画は山北町から道志に向けていったと。そこで文言の問題ですけど、ただ、これがこれから先行くときに錯綜してはいけませんので、私が質問した立場から、これはここですり合わせをちょっとしておいたのを、町長のあれが、理解が答弁でどうかと思います。

これの参考までに、平成13年の12月の議会の町の答弁、13年の12月議会ですね。小田原・甲府線の整備計画については、山北と道志村を南北軸として整備するため、山梨県、静岡県、神奈川県の関係する10の市町村で、今年の7月から研究会を組織し、調査検討しているところです。昨年ですから、平成12年ですね、12年の7月から調査研究開始。県知事、県幹部等にはこの計画の要望等説明している。国土交通省からのこの路線についていろいろと話題が出て、現在どうなっているか逆に県のほうにも問い合わせが来ていることも事実です。これだけの大きな構想が短期間でできるということはない。広域行政の市町村議員または町民の方々が一体で将来に向けて努力をしていくことが問題につながると思いますという、町が答弁してます。といいますのは、これはここでその考えをちょっと、でいいですね。

議 長 町長。

町 長 そのとおりだというふうに思います。

議 長 渡辺良孝議員。

12番 渡 辺 それでは、これについては、これから先進めていく上で構想化が出るか、わからないにしても、一応、そこは確認させてもらうということ。

結局、今回の総合計画では、具体的に小田原・甲府線という構想は、とりあえず幹線道路でしか上げないということですか。

議 長 副町長。

副 町 長 町では県域を越えた広域的幹線道路整備ということで、その辺はしっかり

と位置づけていきたいというふうに、そのためには県、関係自治体とも協議をしていくというふうな形で位置づけていきたいと。位置づけなきゃならないというふうに考えています。

議 長 渡辺良孝議員。  
12番 渡 辺 今の当時の町の答弁を見ても、スマートインターチェンジ、またはインターチェンジができる、できない。できるか、できないかわかんないときに、国、県があれば動くんですね。まだ構想に行かない、また空想でも動き方によったら非常に動くということ、これは改めて、私、ここで、じゃあ、そうですねかと、総合計画を載せないのを強引に載せると言っても、その考えはわかるんですけど、ただ、全体から見て非常に南北軸、それから当時はそうですね。新幹線からリニアモーターまで、これをつなげる構想なんだということだったんですけど、現実には新東名ができて、スマートインターチェンジができて、それでリニアが進んでいく。そうすると非常に、今度は前よりこの構想が現実味を帯びていいんじゃないかという感じはしているんですよ。当時ののは、確かにまだ本当に空想である。でも、これだけ現実に着々とできてきた。そうすると、ここ数年先を見るとき、その辺の構想はやっぱり描いていいんじゃないかと思うんですけど、どうでしょうか。

議 長 町長。  
町 長 優先順位の中では、当然、そういうようなことになるのではないかと。私のほうとしては、まずは246を何としてでもやり遂げた後には、そういったようなものにつなげていきたいというふうに思っております。

議 長 渡辺良孝議員。  
12番 渡 辺 そういう答弁、前もそう。十分なんですけどね。そうしますと、山北町がリーダーシップをとるということはいいですか。幹線道路計画でも、こちらから、もともと構想は山北が動いた。だから、一応、近隣に調整するにも、リーダーシップは出すという考えはいかがですか。

議 長 町長。  
町 長 当然、我が町を通るわけですから、町の立場として、それらを主導的に積極的に行っていくということには変わりはないというふうに思っています。

議 長 副町長。

副 町 長       それと先ほどの石田議員の御質問でもお答えしましたけれども、議員間の中での交流、道志村との山北町議会、その辺の交流によって行政を何と言いますか、後押しと言いますか。せっついていただくような形も、町としては期待していきたいというふうに思います。

議 長       渡 辺 渡       渡辺良孝議員。

12番 渡 辺       総括的に思ったんですけど、ここで町長、山北町は、本当に道路で苦勞してきている町なんですよ。何しろ246の狭いときの騒音から、今でも、まだ246と言っているんで。ですから、今まできた山北の歴史が道路をつくって、東名をつくる時も通りすがりで、何になるの、騒音だけだとか、そういう声が町民の皆さんも本当に夢がない、道路であったと思いますね。ですから、ここはスマートインターチェンジが、ステーションができた関係もあるし、そんなことでいくとき、逆手にとる発想、ですから、今度先ほど申し上げましたスマートインターができるから、道の駅なんか積極的にアクションを起こして、それでいろいろだっていいし、国道でつくるんですから、少し、一つあるからというより、道路で山北は今まで積み上げてきて、町がいろいろ苦勞してきたんだ。だから、道路で一つ活性化をいかさせてくれという意味で、国の道の駅、そういうのも一つ意識に置いて、少し積極的に逆手にとる発想、どうでしょうか。

議 長       町長。

町 長       この間、たまたま国交省さんのほうの土木技術という本を間宮町長が私のほうへ持ってきて、こういうのがあるぞと見せていただいたのが、ちょうど山北だったんですね。要するに、道路がこれだけ本数がある。これが、新東名ができますと11本ですか、できるわけですよ。そのぐらい東名だけでも多いという。しかも、それが非常にカーブとか、そういったものが美しいというような、何か道路写真家というらしいですけど、そういった方もいらっしゃいます。ということは、これから橋ができたり、トンネルもあるんですけども、そういった意味では、非常に山北町が御殿場線もありますし、富士山も見えますし、非常にそういったような道路としての資源としては、非常に有望だというふうに伺っておりますんで、それらを積極的に生かしていきたいというふうには思っております。



議 長 渡辺良孝議員。

12番 渡 辺 渡辺です。

そこは一つ意識して、山北の道で生きてきた町だって、そんな感じでいつていただきたいと思うんですが。確かに、きょうは二つ持ってきて、27年の3月と20年の6月、これは、もう土地利用にはっきり載っているんですよ。南北広域連携軸とカラーで出ているんです。私、これを見ていって、ああとと思ったら、3次の土地利用が全然消えちゃってるんですよ。だから、非常にショックはあるんですけど、せめても土地利用の総合計画は、今、審議しているんですけど、土地利用に頭出しぐらいはできないんですか。

議 長 企画政策課長。

企 画 政 策 課 長 現状の土地利用計画からその路線を外したというのは、先ほども申しましたように総合計画との整合性を図るために外したということでございます。ですので、今後新たな土地利用計画を策定する段階で、広域的な幹線道路の考え方がうちの町でどのような状況になっているか、そのあたりを見きわめた中で判断していきたいというふうに考えてございます。

議 長 渡辺良孝議員。

12番 渡 辺 それから、あとは、私も前にこれを質問したんですけど、酒匂川の幹線道路、これもちょっとここで確認しておきたいんです。これも指摘前もあったんですよ。というのは、何となくわかんないで消えちゃったという計画かなと思うんです。

それでこれについては、前期、4次にあるのか。酒匂川幹線道路計画と酒匂川左岸の通路の改修、二つあるんですよ。酒匂川左岸通路は、既に土木と松田町で計画を進めていくというのはわかっています。ただ、酒匂川左岸の縦貫道路計画、これは結局、山北町だけじゃなくて、小田原からもってきて松田町、山北町でずっとあったんですね。前にちょっと質問したんですけど、ちょっと私もそれははっきり詰めなかったんですね。だから、ちょっとこれはあったのが消えて、それで、これは近隣との関係ですから山北町だけじゃないと思うんです。だからその辺の関係を次の総合計画に確認、位置づけするのか、確認したい。

議 長 企画政策課長。

企画政策課長 酒匂縦貫道路の関係かと思います。酒匂縦貫道路につきましては、小田原市の富士見大橋のところから現在足柄大橋東という交差点のところまで来ております。その先が構想段階ではございましたけれども、その先本来、川を渡って十文字橋、新十文字橋を通過いたしまして、松田町の河川管理道路、それから山北町の酒匂川沿いの河川管理道路、そこを抜けてルート246のほうに接続するといったようなことが当初の左岸道路の計画という形でございます。

それで、現況を申しますと先ほど申しましたように、足柄大橋東交差点のところ、現在とまっております。松田町の区間につきましては、要は河川を渡る橋脚の部分、それと十文字橋、新十文字橋の部分が、なかなか道路がタッチしにくいという部分がございます。それで松田町の部分については、現在、河川管理道路の部分の測量、設計をしている状況でございます。

山北町につきましては、羽田コンクリートさんの裏から先、ごめんなさい。山北高校の裏のところを今年度、来年度で整備をする予定でございまして、その後、上流に向かって町道として整備をしていくといったような状況でございます。

議 長 渡辺良孝議員。  
12番 渡 辺 渡辺です。

そうしますと、縦貫道路、幹線縦貫道路はどうなるの。今の完了道路の町道側はわかりますよ。小田原からつながる幹線道路計画の都市計画の関係もあると思うんですが、その辺の考えはどうなんですか。

議 長 企画政策課長。  
企画政策課長

やはり足柄大橋から先の松田町の部分が非常に難しいということで、計画自体は、なかなか今困難な状況、進んでいない状況でございまして、現在山北町の部分につきましては、先ほど繰り返しになりますけれども、町道として、河川管理用道路を整備していくといったような考えで進んでいる状況でございます。

議 長 渡辺議員、この内容は通告内容と。  
12番 渡 辺 総合計画に。  
議 長 総合計画、全てにかかると。どうぞ、よろしいですか。

渡辺議員。

12番 渡 辺 それはわかりました。渡辺です。

それで、あとじゃあ、山北山中湖線、最後ですけどね。林野庁の林道と県道と重なっていて、ちっともこれはどっちがどっちって、あると思うんですけど、ただ前段、進んでいく上で林野庁もそろそろ植えた木が伐期になるんじゃないかなと思うんですね。切る時期。そうしますと、まず林野庁に、林道が改修をもうどんどんやってもらうようにということをやっていると思うんです。そんな中であわせて、その林道を使って、不老山の関係なんかあると思うんですね。林道改修状況は。

議 長 農林課長。

農 林 課 長 現在、世附のほうの道路に関しては、22年度災害がありまして、その後、国のほうで復旧の工事をずっといたしまして、ことしの7月に、一応、全面通れるような形にはなっております、林道としては。

以上です。

議 長 渡辺良孝議員。

12番 渡 辺 それと全面と言うとどこまでになるのでしょうか。

議 長 農林課長。

農 林 課 長 世附の水ノ木幹線から大又沢を抜けて、県道に出るまでは林道上ですので、一般車は通れませんが、作業用の道路としては使えるような状況になっております。

議 長 渡辺良孝議員。

12番 渡 辺 渡辺です。

大又と水ノ木で分かりますよね。大又は右側、水ノ木は山中湖へ行く、三国のほうに行くことで、水ノ木幹線が三国のほうへつながっているんですけど、その辺の位置はどうでしょう。

議 長 農林課長。

農 林 課 長 今のところ、確認してみますと、22年で大分災害を受けたんですけども、その後、災害復旧工事を行っております、今年度7月にどんどん作業道も通れるような形になっているという連絡は聞いております。

議 長 よろしいですか。

渡辺良孝議員。

12番 渡 辺 終わります。